

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2017年1月14日～2017年1月20日の推移】

【1】先週の回顧

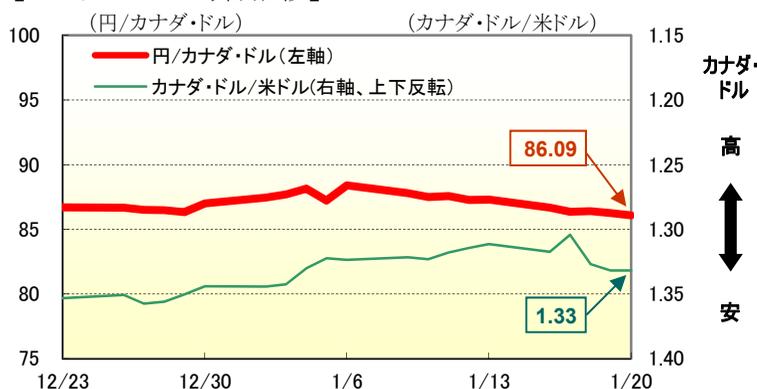
先週のカナダ・ドル円相場は下落した一方で、カナダ5年国債利回りはおおむね横ばいとなりました。

週初は英国によるEU(欧州連合)からの強硬離脱(ハードブレグジット)に対する懸念から、金利は低下し、カナダ・ドル円相場は下落しました。

週半ばのカナダの政策金利決定会合では、市場の予想通り政策金利は据え置きとなりました。しかし、カナダ銀行(中央銀行)が会見で利下げを選択肢に残すと発言したことから、金利は低下し、カナダ・ドル円相場は下落しました。その後は、米国のイエレンFRB(米国連邦準備制度理事会)議長が利上げに前向きな姿勢を示したことから、米国金利に連れてカナダの金利は上昇しました。

週後半のトランプ氏の大統領就任式では特に新しい材料はなく、市場の反応は小幅なものにとどまりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2016年12月23日～2017年1月20日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

今週は、カナダ独自の材料は乏しく、海外要因に左右されやすい展開が見込まれます。引き続き、トランプ大統領の動向や英国のEU離脱の行方に注目が集まるとみられています。

米国ではGDP(国内総生産)や耐久財受注などの経済指標が発表されますが、市場予想を上回る堅調な結果となれば、カナダ・ドル円相場および金利の上昇要因になるとみられます。原油価格や株価などの動向も、金利や為替市場を動かす要因になりそうです。

【カナダ 金利推移】 (2016年12月23日～2017年1月20日)



【3】主要経済指標

発表日	発表頻度	期間	指標名	データ	(参考) 前回
1/19	-	-	政策金利	0.50%	0.50%
1/20	毎月	2016年12月	消費者物価指数(前年同月比)	1.5%	1.2%
1/20	毎月	2016年11月	小売売上高(前月比)	0.2%	1.2%

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>